

団体名	社会福祉法人 大阪ボランティア協会		
事業名	「インクルーシブボランティア」のコーディネーションモデル構築事業 ～誰もが参加できるボランティア活動の支援体制づくりに向けたコーディネーター 研修プログラムの開発～		
実施期間	令和6(2024)年4月1日 ～ 令和7(2025)年3月31日		
助成(実績)額	5,000,000 円		

事業概要	事業実績	事業を実施したことによる成果
<p>地域共生社会の実現のためには、高齢者や障害がある人なども、ひとりひとりの思いや特性を生かして社会参加ができる環境づくりが重要であり、ボランティア活動は、社会参加のひとつの選択肢であると言える。「誰もが参加できるボランティア活動の環境づくりにおいては、当事者からの相談に適切に対応し、その特性に応じたプログラムを開発する専門性の高いボランティアコーディネートができる人材を育成することが必要であると同時に、多職種連携により、あらゆる人の参加を支えるノウハウや事例を共有できる環境づくりが必要である。</p> <p>当協会では、令和5年度助成において、令和4年度、5年度助成で実施した現場のコーディネーター向けのサロンやワークショップ、当事者へのヒアリングなどを通じて明らかになってきた課題を踏まえ、先進事例や精神保健福祉や心理領域の専門職との協働により、ボランティアコーディネーター向けのハンドブックを作成した。</p> <p>最終年度である令和6年度においては、インクルーシブボランティアの環境づくりのボランティアコーディネーションについて正しく理解し、当事者に寄り添いながら参加支援を行える人材育成につなげることを目的として、前述のハンドブックを活用し、①中間支援組織、②ボランティア受け入れ団体、施設、③地域の居場所づくりを行うボランティアリーダーを対象とした研修プログラムを開発した。</p> <p>また、研修プログラムの検討と開発、試験的な実施と検証を繰り返すプロセスにおいて、現場のボランティアコーディネーターの参加を得て、研修内容のブラッシュアップを行い、より実践的にスキルとノウハウを伝えられる研修プログラムを考案した。</p> <p>同時に、令和 5 年度助成で実施した現場のコーディネーター向けワークショップでは、参加者からは具体的な相談対応の場面でのコミュニケーションのポイントや相談者との距離の取り方などについて、精神保健、心理学の</p>	<p><b>1. 企画チーム会議の開催(年5回)</b> <b>2. 研修開発ワーキングチーム会議の開催(年13回)</b> NPO、精神保健福祉の専門職、研究者、障害のある当事者など、多様な視点から研修企画を行った。</p> <p><b>3. ハンドブックを活用したボランティアコーディネーター向けの研修の開発・実施</b> <b>(1)主催研修の開催(10 回・延べ 118 人参加)</b> <b>【単発でインクルーシブボランティアの基礎を伝える講義中心の研修(入門編)】(ちょこっと聞きたいコース)</b> ●受け入れ団体・施設対象 (日時)令和 6(2024)年 11 月 1 日(金) 10 時～11 時 30 分 (参加者)9 人 (講師)関西福祉科学大学 准教授 南 多恵子さん (事例提供)社会福祉法人ストローム福祉会 山王こどもセンター 田村 幸恵さん ●中間支援組織対象 (日時)令和 6 年 11 月 1 日(金) 13 時 30 分～15 時 (参加者)11 人 (講師)関西国際大学 講師 岩本 裕子さん (事例提供者) 社会福祉法人大阪ボランティア協会 棕木 美緒</p> <p><b>【複数回で実施する体系的な研修】</b> ●専門職として働くコーディネーター対象(講義とワークショップ) <b>【基礎講座①】</b>中間支援組織対象 (日時)令和 6 年 11 月 29 日(金) 9 時 30 分～12 時 30 分 (参加者)13 人 (講師)関西国際大学 講師 岩本 裕子さん (事例提供者)社会福祉法人大阪ボランティア協会 青山織衣 <b>【基礎講座②】</b>受け入れ団体・施設対象 (日時)令和 6 年 11 月 29 日(金) 13 時 30 分～16 時 30 分 (参加者)10 人 (講師)関西福祉科学大学 准教授 南 多恵子さん (事例提供者)大阪公立大学 ボランティア・市民活動センターV-station 松居 勇さん (アドバイザー)NPO 法人 DDAC(発達障害をもつ大人の会) 広野 ゆいさん&lt;公認心理師&gt; <b>【スキルアップ講座①】</b> 発達障害の特性と対応のポイント (日時)令和 6 年 12 月 17 日(火) 13 時 30 分～16 時 30 分 (参加者)12 人 (講師)NPO 法人 DDAC(発達障害をもつ大人の会) 広野 ゆいさん&lt;公認心理師&gt; <b>【スキルアップ講座②】</b>居心地のよい場づくりのコミュニケーション (日時)令和 7 年 1 月 10 日(金) 13 時 30 分～16 時 30 分 (参加者)15 人 (講師)ヒューマン・トータルバランスサポート「りんと」 谷水 美香さん&lt;精神保健福祉士&gt;</p>	<p><b>1. パイロット研修での効果検証による実践的な研修プログラムの構築</b> 研修プログラムの開発に向けて、さまざまな時間や対象者の設定、進め方のバリエーションを試行錯誤した結果、対象者の理解度や満足度などにも差異が見られ、丁寧な事例紹介や事例検討ワークショップを盛り込む方が効果的であることがわかった。また、専門職と地域住民では、ボランティアやコーディネーションなどにまつわる予備知識や共通認識に差異があることも把握でき、知識を補足する資料を用意して説明するなどの工夫をして理解度を高めることができたと考えている。</p> <p><b>2. ハンドブックの有用性の確認と共通資料作成による内容の平準化</b> 今回の主催研修、パイロット研修では、令和5年度事業で作成した実践者のためのハンドブックを使用したのが、研修参加者からの評価が非常に高く、「わかりやすい」「このハンドブックを配れるならぜひとも研修を実施したい」という声からパイロット研修につながった。次年度以降の研修企画の相談が入っていることから、ハンドブックの有用性を再確認することができた。また、主催研修においては、ハンドブックの内容に沿ったスライド資料を作成し、誰が講師をしても「インクルーシブボランティア」の理解に必要な基礎的な内容について伝えられる体制をつくることができたことで、研修参加者の学びの質も保つことができた。</p> <p><b>3. コーディネーター同士の悩みやアイデアの共有の場の創出</b> 研修参加者からは、「参加者同士の意見交換で実際の関わり方を知れたことがよかった」「困ったときの対応を知れて自分の業務にも生かしたいと思った」「今悩んでいることの共有ができた」という声があり、コーディネーター同士が事例検討などを通じて具体的な対応方法や大切にしている姿勢や視点を共有したことで、研修自体の理解度や満足度が高まり、より実践的な知識やスキルを得られたことがわかる。</p> <p><b>4. 全国の福祉・教育関係者、ボランティアコーディネーターとの対話による「インクルーシブボランティア」のコーディネーションモデル構築の有用性の明確化</b> 当初の事業計画には盛り込んでいなかったが、当事業では、府内でのパイロット研修に加え、全国レベルでのボランティアコーディネーターの研究集会や、福祉教育・ボランティア学習に関わる関係者が集まる学術大会で、インクルーシブボランティアの考え方や実践事例などを紹介す</p>



専門家に助言を求める傾向が高かった。インクルーシブボランティアのコーディネーションの普及のためには必要不可欠な、コーディネーター自身の心のケアにも着目し、メンタルヘルスや精神保健、コミュニケーションスキルの専門家などの協力を得て、アサーションやバウンダリー（境界線）などについても学べるようなプログラムのパッケージ化を図った。

【スキルアップ研修③】メンタルヘルスと対応のポイント  
(日時)令和 7(2025)年 1 月 30 日(木) 13 時 30 分～16 時 30 分 (参加者)22 人  
(講師)京都光華女子大学 講師 村上 貴栄さん<精神保健福祉士>  
【スキルアップ研修④】アサーティブコミュニケーションのロールプレイ演習  
(日時)令和 7 年 2 月 14 日(金) 13 時 30 分～16 時 30 分 (参加者)5 人  
(講師)ヒューマン・トータルバランスサポート「りんと」谷水 美香さん<精神保健福祉士>  
●居場所づくりなどに取り組む地域組織やボランティアグループのリーダー対象(講義とワークショップ)  
①考え方で変わる！インクルーシブな環境づくりの重要性と進め方のポイント  
(日時)令和 6 年 11 月 14 日(木) 13 時 30 分～16 時 (参加者)14 人  
(講師)社会福祉法人大阪ボランティア協会 永井美佳(事例提供者)安曇川住民福祉ネットワーク 拝藤あい子さん  
②伝え方で変わる！居心地のよい場づくりのためのコミュニケーション  
(日時)令和 6 年 12 月 5 日(木) 13 時 30 分～16 時 (参加者)12 人  
(講師)ヒューマン・トータルバランスサポート「りんと」 谷水 美香さん<精神保健福祉士>  
(2)専門職や市民活動団体のネットワーク組織等での出張パイロット研修と意見収集(5 回)  
※講師は①～③は当協会職員の青山織衣、④は岩本裕子さん、⑤は青山織衣と広野ゆいさん

①岸和田市ボランティア連絡会  
(日時)令和 7 年 1 月 25 日(土) 14 時～16 時 (参加者)10 人  
(対象者)テーマ型 NPO、地域の子ども食堂運営団体の役員  
②特定非営利活動法人とよなか ESD ネットワーク  
(日時)令和 7 年 2 月 14 日(金) 10 時～11 時 30 分 (参加者)18 人  
(開催場所)豊中市庄内コラボセンター  
(対象者)市民公益活動支援センターのコーディネーター、生涯学習事業、子どもの居場所運営スタッフ等  
③社会福祉法人ライフサポート協会  
(日時)令和 7 年 2 月 26 日(水) 18 時～19 時 30 分 (参加者)27 人  
(対象者)地域包括支援センター、障害者施設のボランティア受け入れ担当スタッフ、障害者支援事業担当者等  
④社会福祉法人大阪市社会福祉協議会  
(日時)令和 7 年 2 月 28 日(金) 14 時～17 時 (参加者)40 人  
(対象者)各区社協 第1層生活支援コーディネーター・ボランティア担当者  
⑤大阪公立大学 ボランティア・市民活動センターV-station  
(日時)令和 7 年 3 月 3 日(月) 10 時～12 時 30 分 (参加者)5 人  
(対象者)障害者の参加を受け入れる音楽祭企画リーダーの学生、子ども食堂や市民大学などでボランティアを受け入れている学生、ボランティアセンターの学生スタッフ等

4. 研修プログラムを紹介するパンフレットの作成と配布

5000 部を全国の都道府県社会福祉協議会および市民活動センター等 500 ケ所に配布。主催研修、パイロット研修での参加者からのコメントを踏まえて、対象者別に研修メニューや学べることなどを紹介し、講師派遣依頼につなげられるような情報を盛り込んだパンフレットを作成した。



る機会を得た。その結果、現場のコーディネーターや福祉関係者も同様の課題を抱えていることが再確認でき、ハンドブックを用いて研修を開催したいという声が聞かれた。また、現場経験が豊富なコーディネーターからも、「改めてボランティアコーディネーターの基本的な姿勢を再確認できた」「職場の他のスタッフにも研修を受講してほしい」といったコメントがあり、現場の実践者にとっても、このテーマでの研修実施が有効であることを示していると言える。

5. 多様な研修受講対象者の発掘と現場のニーズに寄り添った研修メニューの開発

専門職向けのパイロット研修では、生涯学習関係の事業を担当しているスタッフや、生活支援コーディネーター、こどもの居場所づくりに取り組むスタッフ、障害者の生活支援や就労支援に関わっているスタッフなど、多様な対象者に研修受講の機会を提供できた。その結果、幅広い対象者に対して研修プログラムを提案するパンフレットが完成した。また、地域住民を対象とした研修では、まずは団体内でのメンバー同士の関係性を見直し、コミュニケーションの健全化を図ることが必要であることがわかり、より現場のニーズに即した研修プログラムの提案ができた。すでに令和 7 年度の研修への講師派遣依頼や研修企画の相談が入っており、今後ますます「インクルーシブボランティア」に関連した研修企画が全国で実施されることが期待できる。

6. メンタルヘルスやコミュニケーションに関わる専門家との連携の効果と今後の研修実施での連携の継続

3 ケ年の助成事業を通じて、メンタルヘルスやコミュニケーションに関わる専門家との連携で、障害特性の理解や相談対応のポイントなどの知見とノウハウを共有してきた。中でも、単に対象者への対応方法だけではなく、コーディネーター自身のメンタルヘルスを保ち、安心・安全な環境で活動支援を行うことの重要性とそのヒントを得られるような研修企画に重点を置いた。研修受講者からも、これまでの自分の相談対応やコーディネーションにはなかった視点や姿勢、自分自身の心を守ることの大切さなど、新たな気づきが多かったというコメントが多く、「インクルーシブボランティア」のコーディネーションモデル構築に際しては、対象者への対応のみならず、コーディネーター自身の自己理解やセルフケアが必要不可欠であることがわかった。研修開発ワーキングチームでは、今後全国展開する研修でも、専門家との連携による実施について合意し、講師リストには、専門家も加えることとした。  
ウェブページ:<https://osakavol.org/vco/inclusivev.html>

最後に、インクルーシブボランティアの推進は、「ボランティア活動」の領域を超え、誰もが自分らしさを大切にでき、安心して過ごせる居場所と役割を持てる「地域共生社会の実現」や「孤立・孤独の解消や抑制」に寄与することが再確認でき、3 ケ年の事業を終えることができた。